

令和4年度山口県立大学社会福祉学部外国人留学生選抜「小論文」問題

以下の枠内の文章を読んで、問1、問2に答えなさい。

問1. 枠内の文章の内容を200字以内で要約しなさい。

問2. 下線部“いったいいつから、「福祉」が「生活保護制度」と同義になり、しかも、世話になるという、恥や世間体の悪さを含んだ、忌み嫌われるものとなってしまったのか。”という筆者の指摘に対して、この状況がどのように変わっていくことが望ましいかについて、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

「福祉の世話にはなりたくない」——精神障害者の方の生活支援をするなかで、この言葉を幾度聞いたであろう。しかも、本人、家族からだけでなく、市民レベルでこうした言説が聞かれた。ここでいわれている「福祉」とは、生活保護制度を指していることはいままでのない。いったいいつから、「福祉」が「生活保護制度」と同義になり、しかも、世話になるという、恥や世間体の悪さを含んだ、忌み嫌われるものとなってしまったのか。

人は誰しも、人生や生活のスタートを切る時点や日々の生活を送るなかで、自己選択ができないこと、自分の努力や責任ではどうにもならないことがある。それは、先天的あるいは後天的な病気や障害、親や生まれた家庭環境、経済の悪化に伴う雇用環境、自然災害などがあげられる。しかし、いまの社会における人の思想や政治は、そうした不可避な諸要件によって苦しい生活を強いられている人に対し、個人の努力や頑張りが足りなかったと、ことさら自己責任をあげつらい、生産性や効率化の名の下に、社会の隅に追いやってしまう。

本来「福祉」とは、人々の幸せであり、豊かさであり、人として当たり前暮らしの保障である。そしてそれは、特定の誰かのためのものではない。また、社会的弱者と呼ばれる社会の隅に追いやられた人々を最低限生き延びさせるための施しでもない。もう少し具体的にいえば、「福祉」とは、人と人とのつながりや、お金や物の再分配を通じた「人の存在と生活の安全保障」である。

国は、これまで、そしていまも、その安全保障の機能維持は個々人の自助努力が前提であることを強調し、それを基にした政策を実施してきた。近年、とくに2000年の社会福祉基礎構造改革以降、財源不足を主な理由にさまざまな「福祉」を市場化し、民間に「福祉」を担わせる一方で、公のセーフティネットにおける給付を切り下げる政策を次々と打ち出していく。そうした流れは、「安全保障」を自己責任によって確保していくことを推し進め、本来すべての人々を対象にした「福祉」が、一部の自助努力を果たすことが困難な人々に限定化した「延命保障」にすり替わってしまう事態を招いた。こうした事態が、人々に過重な自己責任を意識させ、それに苛まれる人々が自助努力を果たすことの難しい人々を非難する分断意識を芽生えさせてきたのである。それは同時に、非難する側が非難される側に立つことへの恐れと不安を想起させ、「福祉」の対象となることを拒否する市民意識が蔓延することにつながっていったともいえる。

※出典は縦書きであるが横書きに改めた。文中の下線およびふりがなは出題者による。

出典：鶴幸一郎ほか編『福祉は誰のために ソーシャルワークの未来図』へるす出版、2019年、9-11頁。



# 「小論文」解答用紙

受験  
番号

【注意】

1. 受験番号欄には、受験番号のみ記入し、氏名は記入しないでください。
2. 解答は横書きで記入してください。
3. 解答以外のことは記入しないでください。

問2.

→ (横書き)

5	10	15	20	25
				100
				200
				300
				400
				500
				600
				700
				800

下書き

問1.

—————→ (横書き)

	5	10	15	20	25	
						100
						200

**下書き**

問2.

→ (横書き)

	5	10	15	20	25	
						100
						200
						300
						400
						500
						600
						700
						800